

茨城NPO情報

茨城のNPO活動を応援する月刊情報紙

1...コラム空飛ぶ帚・NPOのひとびと・トピックス
2...NPO一日体験・情報掲示板・五軒町だより・あとがき

第14号

2003.12

編集/発行
特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町2丁目2番23号102
☎029-300-4321 FAX 029-300-4320
URL <http://www.npocommons.org>
E-mail info@npocommons.org

MONTHLY COMMONS

地域への定着を目指そう

空
飛ぶ
帚

12月1日でNPO法は施行5周年を迎えた。

縦割り行政の許可制ではない法人制度、行政のお墨付きと保護監督によらず、自由に活動し、市民の支持を得た組織が発展する仕組みを目指した制度は、分権型・自己責任型の社会を先取りした社会実験だった。様々な変化が起こり、最近ではあやしいNPOが話題になり出した。今後どうなるか、次の3つが焦点。▶ひとつは、NPOの企業化現象。介護保険や行政事業の委託など事業型NPOで、企業との競合が起き、ボランティアな市民団体と事業手段としてNPO法人格をもつ事業者とが混在しだした。5年前に「市民活動」が「特定非営利活動」に変わってしまった弊害だ。▶2つ目は行政との関わり。連携のルールづくりが求められる。安易なNPO支援や官製NPOの増加、NPO側での委託収入依存が進むと市民団体の下請け団体化が危惧される。市民団体の自立を支える寄付を受けやすくする税制優遇制度の改善も課題。▶3つ目は住民への浸透が進むかどうか。人々の声を踏まえた提言や事業化など行政や企業が担えないことをするところにNPOの存在意義はある。日本に真のNPOを育てる作業は、砂漠で野菜を育てることだと5年前言われた。今、野菜は少し育ってきた。これから野菜に水や栄養を与えるのは、一人一人の市民。

(文 横田能洋)

茨城県認証NPO法人

178法人(12月1日現在)

内閣府認証県在NPO法人

28法人(同)

勤労者マルチライフ支援事業

勤労者ぼらんていあ・ねっと

<http://www.volunteer-net.jp>

余暇や退職後の時間を活用して、ボランティア活動を始めませんか。コモンズは、あなたの社会貢献活動を応援しています!

「セカンドライフ」の充実を!

ぽん、と背中を押してあげること



例えば、農村景観と習俗は都市生活者の心をとらえる“商品”。「ふるさと元気塾」理事、白石智洋さん(46=里美村)には、グリーンツーリズムの主役は、優れた技術や人間性を持ちながらも地元で隠れている人たちだと映る。

人材が隠れている

N
P
O
の
ひとびと

グリーンツーリズムは山間部の経済を動かして、関わる人たちの活力になる。

「地域には、いろいろと持っているにもかかわらず、何かやりたいんだけど、出来なくて、もどかしい思いをしている人がたくさんいます」と白石さんが言う。これまで、里美村を舞台に「炭焼き」や「そば打ち」ほかいくつかのツーリズムの事業に携わってきた白石さん。その途上で、村の人の中には、「何かしたい」という切実な気持ちがあることを知るようになった。

なぜかは白石さんも分からない。単純に「自己実現」

とも言えるだろうが、そうした衝動を持っている人材が埋もれている、と感じる。村の中に深く入れば入るほど、面白い事が出来る人やグループがたくさんある。そして、隠れた人々を掘り起こす事の方が、行政サイドのお墨付きの、出来合いの人材を遠くから据えて来なくても、良いものが出て来る、とも思う。

「その人たちに場所をつくってあげる。ツーリズムのようなプログラムを提供し、背中をぽんと押してあげる。そうすると爆発的に動き出せることがあるんです。白石さんは、そうした人たちが力を発揮できる、橋渡しがしたい。

盛況な農家民宿

白石さんが管理人を務める里美村大中の会員制農家民宿「荒時邸(あらまきてい)」は、自身のツーリズムが成功している例だ。

「さとみツーリズム探求会」のメンバーの主婦4人と共に、昨年6月に営業を始めた。築140年の古民家をもそのまま活かした宿。1組限定で、1泊一人2千円。自炊から風呂焚きまで、農村の昔ながらの暮らし体験が出来る。

「ツーリズムにはいろんな方法があります。都市生活者には観光であっても、村の住民にとっては副業になり、遊び場にもなるのだから、自分たちで出来るツーリズムをすればよいのでは」

PRはほとんどしていないにもかかわらず、今年8

ふるさと元気塾

白石智洋さん
(里美村)

月は宿泊予約がほぼ満杯。来春以降も人気は続きそう。

自称「雑務担当」

「道の駅さとみ」の駅長をしている白石さん。自称「雑務担当」。30歳代前半に帰郷して以降、白石さんは敢えて、さまざまな場に顔を出した。1年間プロのサッカークラブ「水戸ホーリーホック」の非常勤役員だったこともある。

酒の席にもよく顔を出す。アイデアが出て、「白石、考えてみろよ」と声が掛ければ、その声のままにイベントなどの看板やチラシ、進行表を作ったり、仕入れの折衝をしたりと雑務を引き受ける。反省会の席で、さらなる雑務(仕事)が生まれることもたびたび。

下準備や雑務が否応なく物事の段取りを教え、ひいては地元での存在感を高めて、表に出てこない、地域の、サイレントな声も拾い上げる役回りも。

白石さんは、繰り返す。「地域でいらいらしている人の背中を、ぽん、と押してあげたい」と。

(文と写真 佐竹 明)

NPO法人「ふるさと元気塾」
〒310-4503
御前山村野口443の9
☎0295-55-3680
農家民宿「荒時邸」
☎0294-82-2337

TOPICS

地域で行われている助け合いの活動を皆で応援し、組織をヨコにつないでいくことが地域福祉です。この講座は、住民参加型福祉を担う人、推進する人を地域に増やし、その人々のワーキングネットをつくることを目的に県が主催し、NPO・福祉団体・大学の関係者による運営チームが運営して「この指とまれ」の参加型で実施します。

講座では次の5つの力①地域の福祉ニーズを肌で感じ、福祉資源を発見するセンス、②課題解決策を生み出す発想力、③会議で参加とアイデアとを引き出す力、④計画をつくり人や資金

を集める力、⑤組織の枠を超えた協力関係を築く力、を豊かにすることを目指します。

地域福祉プロモーター養成講座

受講申し込み締め切り迫る!

次のプログラムの中から20時間以上受講していただきます。▶第1ステップ「住民福祉の講義と地域課題をみつけるワークショップ」(1月10日(土)午前10時～午後2時、水戸市福祉ボランティア会館、講師・木原孝久さん)▶第2ステップ「福祉現場実習」

(1月11日(日)～30(金)の間で4時間以上)▶第3ステップ「交流合宿(実習ふりかえり、計画づくりと広報の仕方のワークショップ)」(1月31日(土)午後1時～2月1日午後2時、県中央青年の家)▶第4ステップ「地域での実践に役立つ講座」(2月中旬に県内5会場に分かれ開催、会場未定)。

定員は100人。費用は受講生登録費千円。この他にプログラムごとに宿泊研修(3千円)、実習費などをご負担いただきます。

問い合わせは、茨城NPOセンター・コモンズ ☎029-300-4321へ。